

◆ 平成28年度活動報告シート ◆

団体名：NPO法人 ジョイライフさやま

19A-01

代表者：久保田慎三郎

URL：

1. 活動が必要とされた状況



武蔵野の面影が多く残る緑豊かな自然を維持保全するため、自然を破壊する不法投棄を無くす活動が必要となる。ゴミによる藪化により貴重な樹林地が宅地業者に転売開発され街のみどりが失われていくことを少しでも防ぎ、自然林を残し、みどり保全に努力して行きます。今年より雑木竹林も6年の活動により成果が出てきましたので、県の要望もあり河川の美化活動に参加、河川敷に投棄された粗大ごみや生い茂る外来種のハリエンジュ（ニセアカシア）の繁殖を止め藪化した雑木林を整備保全し、6年をめどに公園として市民が憩える場所として有効活用出来るように環境整備保全を竹林と並行して整備して行きます。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）



雑木竹林の有効活用による事業で環境整備へ参加して下さる住民を交え、日程表を作り作業に取り組む。竹の子の生育に合せ、10月後半より次の年2月ころまでは竹林に力をいれ、4人～6人体制で筍が収穫出来る竹林を目指し整備を進める。河川整備は29年より2月～12月まで毎月第2第3日曜日に作業を行い藪化した雑木林の整備に7人～12人態勢でボランティアの参加をお願いし、作業に取り組む。河川敷の整備では川の生物、水質調査を交え事業を取り入れながら良好な河川環境の整備保全を目指していきます。今年は川での事業として8月に竹材を利用したイカダ作りに挑戦、環境の未来と夢と題して参加者を集い環境保全にご理解を頂き活動しました。



3. 活動の成果



サイサン環境保全基金の助成により機材も増え整備活動が進み様々な事業展開が出来るまでに成りました。整備した雑木竹林では子どもから高齢者まで癒しとなる居場所作りと成っており環境の問題として成長の早いモウソウチクは放置された竹林にとって脅威と成っている反面、竹の効用は数多くの実用品を生み、人間生活に溶け込んだ資源とも成っていて、子どもや大人の教学の場ともなっています。さらに有効活用による地域資源を活用したイベントを企画出来、地域作り、地域活性に寄与する魅力ある雑木林と成りました。河川敷整備では子どもたちが体験活動や環境教育により学び考え、自然に対する理解を深めることが出来るほか、子どもからお年寄りまで幅広い市民が自然環境の良さを認識し活動に参加してくれる事が大きな収穫と成っています。



4. 今後に残された課題

イベントの効果もあり環境整備を理解し参加されるボランティアが多くなり、機材の不足が出ています。手作業が多く成っていますので機材の整備が必要と成って来ます。